

ムギ類赤かび病

【 学名 : *Fusarium asiaticum*, *Fusarium avenaceum*, *Fusarium crookwellense*,
Fusarium culmorum, *Gibberella zeae* など 】



【被害と発生生態】

- ・ 発生部位…主に穂，茎，葉，葉舌，葉耳，葉鞘。幼苗にも発生
- ・ 発生時期…開花期～乳熟期
- ・ 発生好適条件…20～27℃で湿潤状態が長時間連続する場合

【見分け方】

- ・ 形態：病斑部には桃色のカビがみられ，のちに黒色の小粒（子のう殻）を生じる。

【防除のめやす】

- ・ 開花期を中心に第1回散布を行ない，多発が予想される場合には第1回散布の7～10日後に第2回散布を必ず行なってください。

【対策】

- ・ 水分60%以上の土壌に生育したムギに本病の発生は多いので，過湿にならないよう排水路を整備してください。
- ・ 茎葉散布剤による防除適期は，一般に病勢の進展が活発になる穂孕期ころです。
- ・ 窒素肥料の多用と施用時期の遅延は，ムギ穂の感受性を高めるため，多量追肥は避けてください。